

調べ案内

作成者: 戸田市立図書館 / 作成日: 2019年1月15日



に こう しょうにん

日向上人について調べるには

HP アドレス <https://library.toda.saitama.jp/>

日向上人は、鎌倉時代後期に存在した日蓮宗の僧侶で、日蓮上人の高名な弟子の一人といわれています。身延山久遠寺みのぶさんくおんじ（山梨県にある日蓮宗総本山）の別当^{*1}を務め、妙光寺そうげんじ（のちの藻原寺：現千葉県茂原市）及び戸田市みょうけんじ妙顕寺かいさんの開山^{*2}であったといわれています。

*1 別当とは、諸大寺で寺務を統括した僧官を指します。（『広辞苑』第7版 p.2640）

*2 開山とは、寺院の創始者を指します。（『広辞苑』第7版 p.481）

「日向上人」について調べるためのキーワード

日向、妙顕寺にいぞ、新曾村、日蓮宗、妙光寺（藻原寺）、千葉県茂原市、身延山久遠寺、山梨県身延町等

オンライン目録（OPAC）、インターネット及び各種データベースを検索する際の参考にしてください。

テーマの棚に行って本を探す

● 図書館の本は一冊ずつ分類記号が付いています。棚の本は分類記号の番号順に並んでいます。「日向上人」に関する資料には、以下の分類記号が付いています。本を探すときの目安にしてください。

「日向上人」に関する主な分類記号 ※これがすべてではありません。

188.9	日蓮宗	213.4	埼玉県の歴史	213.5	千葉県の歴史
-------	-----	-------	--------	-------	--------

目次

p.2 [日向上人を掲載する事典名を調べる。](#)

p.2 [日向上人の経歴、出自等を調べる。](#)

p.4 [系図、出典にあたる。](#)

■日向上人について調べるときは、日蓮宗関係の書籍、埼玉県の歴史又は地誌、系譜等を探しましょう。今回紹介する資料は、一部を除き、戸田市立図書館で所蔵する日向上人と戸田との関係を示す資料に限りしました。以下のリストは、本がある場所ごとに分類記号順に並んでいます。

日向上人を記載する事典名を調べる。

歴史上有名な人物は、歴史辞典、人名事典等に記載しています。まずは、人名から掲載事典名を調べられる本にあたりましょう。

◆人名辞典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『人物レファレンス事典』* 古代・中世・近世編 せ〜わ 新訂増補	日外アソシエーツ	1996	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>この事典では、日本史上活躍した人物がどの人物事典、歴史辞典等に掲載されたのかを調べられます。※1996年より前に刊行されたものを対象</p> <p>p.1842「日向 にこう」</p> <p>日向上人の掲載資料名、掲載資料に出てくる読み方、生没年、別名及び日蓮上人の六老僧の一人であることが分かります。</p> <p>検索のヒント: 50音順です。</p>			

*1996年以降に刊行された人物事典、歴史辞典等については、『人物レファレンス事典』古代・中世・近世編2(日外アソシエーツ、2007)p.2080、『人物レファレンス事典』古代・中世・近世編3(日外アソシエーツ、2018)p.1651を御利用ください。

日向上人の経歴、出自等を調べる。

掲載事典名を確認したら、日向上人の経歴、出自等を調べられる百科事典、歴史辞典等を見ましょう。

◆百科事典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『大百科事典』第20巻	平凡社	1934	R031	中央2階・参考資料室
	<p>p.39-40「ニックー 日向」</p> <p>日向上人の生没年、父親の名、出身地、著書、茂原に妙光寺を建立したこと、日蓮門下六老僧の一人であったこと、経歴等について書かれています。</p> <p>※妙顕寺との関連は不明です。</p> <p>検索のヒント: 読み方が分からないときは、第28巻「索引」を使いましょう。</p>			
『日本大百科全書』17	小学館	1987	R031	中央2階・参考資料室
	<p>p.685「日向 にこう」</p> <p>日向上人の生没年、別名、出身地、日蓮上人の六老僧の一人であること、経歴、本拠地等について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			

◆仏教辞典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『日本仏教史辞典』	吉川弘文館	1999	R180.3	中央2階・参考資料室
	<p>p.810「にこう 日向」</p> <p>日向上人の生没年、出身地（上総国藻原郷）、別名、経歴、天台宗から日蓮宗に改宗し、六老僧の一人となったこと、藻原に妙光寺を開創したこと、著書等について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『日本仏教人名辞典』	新人物往来社	1986	R180.3	中央2階・参考資料室
	<p>p.351「日向(にっこう)」</p> <p>日向上人の生没年、宗派、別名、出自、経歴、著書、六老僧の一人であったこと、開山した寺院名（妙光寺、妙願寺及び妙勝寺）、日蓮宗の僧侶となった契機、及び参考文献について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『日蓮宗事典』	日蓮宗宗務院	1981	R188.9	中央2階・参考資料室
	<p>p.570-571「にこう 日向」</p> <p>日向上人が日蓮上人の本弟子の一人であったこと、生没年、出自、著書等について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			

◆歴史辞典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『国史大辞典』 10	吉川弘文館	1989	R210.0	中央2階・参考資料室
	<p>p.840-841「にこう 日向」</p> <p>日向上人が日蓮上人の最高弟の一人であったこと、生没年、出自、著書等について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『角川日本史辞典』	角川書店	1996	R210.0	中央2階・カウンター
	<p>p.801「にこう 日向」</p> <p>日向上人の生没年、宗派、出身地、著書、日蓮上人の死後、上総茂原の妙光寺を開創したこと及び身延山2世を務めたことが分かります。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			

◆人名辞典

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『コンサイス日本人名事典』	三省堂	2009	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>p.1022「にっこう 日向」</p> <p>日向上人の生没年、出身地、別名、妙光寺(のちの茂原寺)を開創したこと、日蓮上人の六老僧一人で、身延山久遠寺二世を務めたこと等が分かります。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『国書人名辞典』 第3巻	岩波書店	1996	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>p.549「日向 にこう」</p> <p>日向上人の生没年、名号、俗名、出自、経歴、著作及び参考文献について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『新潮日本人名辞典』	新潮社	1991	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>p.1306「にこう 日向」</p> <p>生没年、宗派、出身地、別名、経歴、妙光寺を開創したこと、日蓮上人の六老僧の一人で、久遠寺二世を務めたことが分かります。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			
『日本古代中世人名辞典』	吉川弘文館	2006	R281.0	中央2階・参考資料室
	<p>p.723「にこう 日向」</p> <p>日向上人の生没年、出自、出身地、天台宗から日蓮宗に改宗したこと、別名、日蓮上人の六老僧の一人で久遠寺二世を務めたこと、著書、花押及び参考文献について書かれています。※妙顕寺との関連は不明です。</p>			

◆戸田市関係の郷土資料

[戸田市の歴史の本で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
『戸田市史』 民俗編	戸田市	1983	T213.4	中央2階・戸田市関連郷土資料
	<p>p.1372-1373「宗門第一子安之靈場略縁記」</p> <p>弘安2年(1279)、隅田^{すだ}五郎時光が身延山で出家して日徳と名乗り、自分の城に御堂を建て、長誓山^{ちようせいざん}妙顕寺となったこと及び日向上人を開山としたことが分かります。※『宗門第一子安之靈場略縁記』は、新曾の妙顕寺の縁起です。</p>			

◆埼玉県関係の郷土資料

[地誌で調べる。]

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
<small>しんべんむさしふどきこう</small> 『新編武蔵風土記稿』 第7巻 (大日本地誌大系13)	雄山閣	1996	T291.3	中央2階・郷土資料架
	<p>p.231「妙顕寺」(「新曾村-寺院」内)</p> <p>妙顕寺の創建にまつわる伝承について書かれています。それによると、弘安3年(1280)、隅田時光父子は日蓮上人に師事して身延山で出家して日徳、日堅と名乗り、日向上人を開山に迎え妙顕寺を建立したとあります。</p> <p>検索のヒント: 妙顕寺は、足立郡新曾村にありました。</p>			

系図、出典にあたる。

[国立国会図書館デジタルコレクションで調べる。]

参考文献で使われた出典又は寺院関係の史料を探すときは、『国書総目録』等で所収された全集の有無を調べるか、国立国会図書館デジタルコレクションで該当史料が閲覧可能か調べる方法があります。

国会デジタルコレクションで調べるためのキーワード: 史料名、藻原寺、上総国、日蓮宗

国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) は、国立国会図書館がデジタル化した所蔵資料及びデジタル資料を検索・閲覧・視聴できるインターネットサービスです。「インターネット公開」はパソコンで閲覧できますが、『本化別頭仏祖統紀』等「図書館送信資料」は、国立国会図書館又は国立国会図書館の承認を受けた公共図書館・大学図書等を御利用ください。

[▲ページのトップに戻る。](#)

書名	出版者	出版年	分類	本がある場所
<small>ほんげべつとうぶつそとうき</small> 『本化別頭仏祖統紀』上 (『日蓮宗全書』2所収)	須原屋書店	1910	188.9	国立国会図書館デジタルコレクション
『本化別頭仏祖統紀』(『本化別頭仏祖統記』とも)は、享保16年(1731)、日潮(江戸時代中期の日蓮宗の僧侶)が記した伝記です。 p.218-223(126-128 コマ)「本化別頭仏祖統紀」上巻「世家」内「藻原妙光寺開山日向尊者世家」 日向上人の諱、別名、出自、俗名、出家後の伝承等について書かれています。p.222(128 コマ)に、「新曾妙頭寺」が出てきます。 検索のヒント: 日向上人は、日蓮上人の高弟の一人です。				
<small>にちれんしゅうかくほんざんめいしよずえ</small> 『日蓮宗各本山名所図会』	博文館	1903	188.9	国立国会図書館デジタルコレクション
『日蓮宗各本山名所図会』は、石倉重継(1875-1938:別名花笠庵、石倉翠葉等)が久遠寺、法華経寺、藻原寺、誕生寺、妙本寺及び本門寺の日蓮宗六本山の事績をまとめたものです。 p.248「藻原山藻原寺の部-由緒沿革」 妙頭寺との関連は不明です。なお、藻原寺の由緒沿革に日向上人について触れている箇所があります。				
<small>そうすいぼうさん ぼうそうめいしやうし</small> 『総水房山:房総名勝誌』	五十嵐重郎	1900	213.5	国立国会図書館デジタルコレクション
『総水房山:房総名勝誌』は、明治33年(1900)五十嵐重郎(略歴不詳)が記した千葉県在地誌です。 p.111「藻原寺」 妙頭寺との関連は不明です。なお、藻原寺の項目に日向上人について触れている箇所があります。				

[▲ページのトップに戻る。](#)